

1 単元名 きょう土のはってんにつくす ～大法づつみをひらく～

2 単元目標

- 地域のため池を開いた先人の働きへの関心や、先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りと愛情をもち、地域社会のよりよい発展を考えることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ため池を開発した先人の働きについて学習問題を見だし、地域の人々の生活の向上には、人々の願いやそれを実現するための努力があったことと、山下慶次郎をはじめとする先人の働きや苦心があったことを関連づけて考え、適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 今も残るため池の様子の見学・調査、地域の人への聞き取り、年表その他の資料を活用して必要な情報を集め、適切に読み取り、ため池の開発に尽くした先人の働きや苦心を年表や新聞などにまとめることができる。(観察・資料活用の技能)
- ため池を開いて地域の発展に尽くした山下慶次郎をはじめとする先人の働きや、地域の人々の生活の向上は、人々の願いや努力、先人の働きや苦心によるものであることを理解している。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第4学年の内容(5)に準じて設定したものである。

地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例

(内容の取扱い)

ウ 「具体的事例」については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。

地域の人々の生活向上に対する先人の願いや工夫・努力、苦心、地域の人々の生活が向上したことなどを、見学、調査したり、年表にまとめたりして、具体的に調べていく。

本単元では、山下慶次郎が中心となりつくった「大法堤」について取り上げる。1874年森藤村の区長となった山下慶次郎は、荒地を開墾し、新田開発を行った。しかし、新田開発に必要な大量の水が確保できなかったため、ため池工事に着手した。村民と一丸となって取り組み、1912年に大法堤と15町歩の水田を完成させ、人々の生活を豊かにした。森藤村という身近な地域において、過去から現在まで、人々が生活向上のために努力してきた様子を理解することができる事例である。

(2) 児童観

本学級の児童は、男子3名、女子11名、合計14名の学級である。落ち着いて、また、意欲的に学習に取り組むことができるが、社会科についてのアンケート結果を見ると、社会科学習への意欲が高いとは言えない。

学習面では、自分の考えを伝える事や、間違ふことを恐れる児童が多く、発言を躊躇してしまう場面もみられる。そこで、1学期は発表を聞く際に、「似ています。」「他にもあります。」など反応

しながら聞くことや、ペアやグループで自分の考えを説明し合う活動を行うことで、間違いを恐れず堂々と発表できるよう指導を行った。また、発言を終えた児童が、その内容に似ていたり、反対意見をもつ児童を指名して、発表をつなげることで、互いの意見をつなげたり、深めたりできるよう指導している。

社会科に関しては、4年生になり、火事から暮らしを守る働きや、飲料水の処理と自分たちの生活とのかかわりについて、身近な資料の活用や、身近な場所の見学を通して学習を深めてきた。本単元でも身近な地域の先人の事例である山下慶次郎の働きと、自分たちの生活とのかかわりをきっかけに学習に取り組みたい。資料の読み取りについては、様々な資料を比較して社会的事象を把握する力が十分身につけているとはいえない。資料を読み取る視点を提示したり、学び合い活動を通して、資料を読み取る力をつけている。

(3) 指導観

指導にあたっては、実際に見学したり聞き取り調査をしたりして、直接的に社会的事象と関わりながら学習を進めていく。また、学習問題に対し予想を立て、事実と予想を比較し、検証することで、学びを深めていきたい。

学習にあたっては、現在の大法堤と当時の工事の写真を比較したり、大法堤の様子を見学したりすることで、森藤の人々の願いを知り、そこから「山下慶次郎はどのようにして大法堤をつくっただろう。」「山下慶次郎らはどのような努力を重ねただろう。」などさまざまな問いを引き出し、学習問題「大法堤は山下慶次郎のどのような願いからつくられ、森藤村の人々の生活を向上させたのだろう。」につなげていきたいと考えている。

本時では、山下慶次郎らの工夫を捉えさせたい。そのために、大法堤をつくる工事の中でも特に先人の工夫を捉えやすい水源から地下水路をひく工事を取り上げる。慶次郎らは、水源から堤に水を入れる際、その間にある小高い山をどう越えて水を入れるかに苦心していた。そこで、その山の地下に、9年間を費やし150mの地下水路を完成させた。導入では、前時のふり返りから堤は農業用水として水を送りやすくするために、土地の高い場所につくられていたことを確認する。本時では、その水をどうやって堤に入れたのかと問い、学習問題を引き出したい。その答えとなるキーワードとして、「水源」と「地下水路」がある。年表から何年もかかり水源を見つけたことを調べる。立体模型を見て水源から堤までの間に山があり、水をひくことが困難であることを捉えさせる。その後、どのようにして水源から水を入れたかを話し合うことで山下慶次郎らの知恵に気づかせたい。このなかで、150mの地下水路をつくるのに、9年もかかっていることから、次時への当時の人々の努力に気づく学習へとつなげていきたい。

単元のまとめでは、第三次で新聞を作り、山下慶次郎や大法堤について分かったことや考えたことを自分の言葉でまとめ、お家の人に伝える活動を行うことで、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心、努力についてより深く考えられる学習としたい。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
① 地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きに関心を持ち、意欲的に調べている。	① 地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心、努力を関連付けて考え、適切に表現している。	① 地図や写真、資料などから、地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。 ② 調べたことを年表や作品などにまとめている。	① 古くから残るくらしに関わる道具、それらを使っていた頃のくらしの様子を理解している。 ② 地域の発展に尽くした先人の働きを理解している。 ③ 地域の人々の生活の変化や向上が人々の願い、努力や先人の働き、苦心によるものであることを理解する。

6 本時の学習（5／10）

（1）目標

地下水路をつくる工事について調べることで、先人の働きや苦心を考え、表現することができる。

【思考・判断・表現】

（2）授業仮説

山下慶次郎の年表、大法堤の立体模型や断面図をもとに、水を大法堤に入れる方法を考え、話し合うことで、地下水路をつくるという工夫を知り、先人の知恵に気付くことができるだろう。

（3）準備

立体模型、地形図、断面図（掲示用・児童用）、人物年表（掲示用・児童用）、まなボード

(4) 学習過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	教師の支援と評価◎ (評価方法)
つ か む 調 べ る	1 前時の学習をふりかえり、本時の課題を確認する。	○前回の授業で出た疑問を確認しよう。 ・水をどうやって入れたらう。	・前時に出了た疑問を確認させる。 ・水の量を知らせる。
	山下慶次郎は、大法堤に大量の水をどうやって入れたのらう。		
	2 どのようにしてため池に水をためているか予想する。	○大法堤の水は、どのようにして入れたのか予想してみよう。 ・バケツで入れる。 ・雨をためてつくる。 ・かせいち川から入れた。 ・水を流す通路をつくる。 ・水がわき出ているところに大法堤をつくった。	・大法堤の写真をもとに予想し、検討させる。
3 年表や立体模型から、どうやって水を入れたのかを考え、話し合う。 ・一人学び ・ペア ・全体	○ため池に水をどのように入れたのか年表から見つけよう。 ・水源から水を入れた。 ○水源から大法堤まで、山があるのにどうやって水を入れたか、予想して、断面図に水の通り道を書き込みましょう。(説明を考えよう) ○自分の考えた水路を発表しよう。理由もつけて伝え合ひしよう。 ○山下さんの考えた地下水路について断面図で確かめましょう。	・ため池の水がどこからきたのか、関係がある部分に線を引き、読み取らせる。 ・立体模型と断面図を提示し、堤と水源地の位置と土地の高さの関係が分かるようにする。 ・共通する考えの児童に発言を促したり、妥当性を検討したりして、考えが深まるようにする。 ・150mの地下水路があったことを知らせ、距離を視覚的に分かるようワークスペースの長さを例にする。 ・まとめのキーワードを示し、工夫をまとめるようにさせる。 【キーワード】 ・水源 ・地下水路	

まとめる	<p>4 山下けいじろうは、大量の水を入れるためにどのような工夫をしたのかまとめる。</p> <p>5 今日の学習をふりかえる。</p>	<p>○大法堤に水を入れるために、どのような工夫があったのか、まとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山下さん達は、水源から水を引き山の中に150mの地下水路をつくってため池に水をためた。 <p>○次の授業で調べてみたいことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように地下水路をほったろう。 ・どれくらいの期間がかかったろう。 	<p>◎水源や地下水路を利用するといった工夫をまとめている。 (発表・ノート)</p> <p>・150mの地下水路をつくる方法に興味をもたせる</p>
------	--	---	---

5 単元計画と構造図 (10時間扱い)

中心概念	さまざまな工夫や苦心を重ねてため池を開発した先人の働きにより、人々の生活の向上への願いが実現し、地域が発展してきた。
学習	大法堤は、山下慶次郎のどのような願いからつくられ、生活を向上させたのだろう。
調べること	大法堤は、生活を少しでも良くしようという人々の願いからつくられた。土地が高い場所に大法堤をつくることで、農業用水として水を送りやすくした。また、長い期間をかけて水源から人の手で地下水路をひいた。山下慶次郎が人々の生活の向上を願い、様々な工夫や苦心を重ねた事によって、水田が広がり、人々の生活は向上した。

時間ごとの学習問題	大法堤のひみつをみつけよう。①	大法堤はどんな様子だろう。②(見学)	森藤の人々の願いをもとに、学習問題をつくろう。③	森藤村は、近くにかせいち川があるのに、どうして水不足だったのだろう。④	山下慶次郎は大法堤の水をどのようにして入れたのだろう。⑤(本時)	山下慶次郎らは、なぜ50mの水路をつくるのに、9年もかかっただろう。⑥(道具体験)	大法堤ができて、人々のくらしはどのように変わったのだろう。⑦	調べて分かったことや考えたことを新聞にまとめ、お家の人に伝えよう。⑧⑨⑩
キーワード	・山下慶次郎・ため池・大法堤・森藤・人の手	・山下慶次郎 ・石碑・水路 ・山林・記念碑	・水田・水不足・苦しい生活・人々の願い・農業用水	・土地が高い・水が送りやすい	・水源 ・低・九年 ・地下水路 ・土地の高	・人の力・努力	・水田 ・豊かな生活・防火用水 ・ヘクタール	・大法堤 ・山下慶次郎 ・願い
資料	・工事の写真 ・大法堤写真	・記念碑・石碑	・記念碑の内容・紙芝居	・地形図・立体模型・断面図	・地形図・立体模型・断面図	・昔の道具	・地図・山下さんの話・水田の広さの変化の図	・これまでの学習で使った資料 ・学習ノート

関・意・態	①							
思・判・表		①		②				
技能		①		①				②
知識・理解			②		①		③	